

I ま え が き

令和4年度の一般会計の決算額は、歳入総額が8,580億100万円、歳出総額が8,506億となり、歳入・歳出とも増となりました。

歳入総額については、前年度決算額と比較すると1.2%の増となっています。

これは、普通交付税の不交付団体になったことによる地方交付税の減や子育て世帯への臨時特別給付金事業に係る国庫支出金の減などの一方で、市民税や固定資産税などの市税の増、本庁舎等建替事業の進捗による市債の増などによるものです。

歳出総額については、前年度決算額と比較すると1.3%の増となりました。

これは中小企業融資事業費の減による経済労働費の減などの一方で、本庁舎等建替事業の進捗による総務費の増、住民税非課税世帯等への電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付事業の実施による健康福祉費の増などによるものです。

また、歳入歳出差引額から、令和5年度への繰越事業に充当する繰越財源を差し引いた実質収支額、いわゆる剰余金は19億4,000万円となりました。

市税収入については、個人市民税が所得の増加などにより増、固定資産税が家屋の新增築などにより増となったことなどにより、2年ぶりの増で過去最高となりました。また、予算では減債基金から194億円の新規借入れを予定していましたが、決算では、予算に対して市税が増収となったことのほか、保育所の利用児童数の増加が見込みを下回ったことや、子宮頸がんワクチン接種等の各種感染症予防接種者数が見込みを下回ったことに伴う歳出の減などにより、最終的には新規の借入れを行いませんでした。なお、これまでの借入額の累計は527億円となっており、引き続き厳しい財政状況となっています。

このような状況においても、多様化する課題への的確な対応など、必要な施策・事業の着実な推進と、財政の健全化による持続可能な行財政基盤の構築の両立に向けた財政運営を進めてまいります。

以下、令和4年度決算のあらまし及び令和5年度上半期予算執行のあらましについてご説明いたします。